

卒業後のアンケート調査結果

えきさい看護専門学校同窓会を通じて依頼した「えきさい看護専門学校を卒業された方への卒業後アンケート調査」の結果が集計できました。皆様からいただきました貴重なご意見を今後のカリキュラム改正に役立てていきます。

卒業生の方々には、調査にご協力いただきありがとうございました。

1 アンケート回収率

令和元年11月30日現在

	依頼総数	回収数	回収率
計	238	172	72.3%

(有効回答数:170)

2 就業状況

令和元年11月30日現在

総数 (人)	現在の就業状況		就業施設別状況								
	仕事している (人)	仕事していない (人)	名古屋掖 済会病院 (人)	名古屋掖済会病院以外 (人)						未回答	
				①一般 病院	②精神 病院	③診療所	④訪問看 護ス テーション	⑤介護保 険施設 等	⑥社会福 祉施設 等		
計	170	165	5	152	9	0	1	1	0	1	1

3 卒業後の転職・離職状況

令和元年11月30日現在

総数 (人)	転職・離職の有無			②の履歴の変更回数					
	①してい ない (人)	②した (人)	未回答 (人)	1回	2回	3回	4回以上	未回答	
計	170	154	14	2	8	4	0	0	2

4 看護実践能力の自己評価

【評価尺度】5:できている 4:概ねできている 3:ややできている 2:あまりできていない 1:全くできていない

令和元年11月30日現在

教育目標	卒業後の調査項目	平均
1 自分と異なる価値観を受け入れ、自分を反省し他者との信頼関係を築くことができる。	1)自己の行動や発言を振り返り、自己を客観視し、反省するように心がけている。	3.8
	2)医療従事者や看護の対象者の文化的背景・価値観・信条を尊重し、共感をもって関わることができている。	3.8
	3)医療従事者や看護の対象者と信頼関係を基盤とした人間関係が形成できている。	3.8
	4)看護の対象者の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動できている。	3.8
	5)人間の喜び、悲しみ、苦しみを感じ、相手を思いやり、相手の立場に立って関わることができている。	3.9
2 人間を身体的、精神・心理的、社会的に統合された存在としてとらえる。	6)看護の対象者の身体的、精神・心理的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報が収集できている。	3.5
	7)看護の対象者の健康や障害の状態を把握し、多様な状況やニーズへの情報が収集できている。	3.6
	8)看護の対象者を生活する者(生活者)として捉え、多様な価値観やニーズへの情報が収集できている。	3.6
	9)看護の対象者には個人差はあるが、健康や障害の状態へ適応していく力や強みがあるととらえ、情報が収集できている。	3.5
	10)得られた情報をアセスメントし、優先度の高いニーズをとらえることができている。	3.7
	11)得られた情報をもとに看護の対象者を統合的にとらえ、起こりうる問題や予測される問題の判断ができている。	3.6
3 健康や障害の状態に応じた看護を科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を身につける。	12)健康や障害の状態に応じた看護を実践するため、従事する部署に必要な専門的な知識や技術への学習を継続できている。	3.5
	13)看護の対象者に起こりうる問題や予測される問題への判断から、看護介入を起こすか否かの判断ができている。	3.5
	14)看護基礎教育で学んだ原理・原則を踏まえて、看護援助ができている。	3.6
	15)看護の対象者の状況や場に応じて援助方法を工夫したり、援助方法の選択ができている。	3.8
	16)看護の対象者の思いや考え、希望を意図的に確認し、ケアに関連づけることができている。	3.7
	17)看護の対象者の意思決定に必要な情報を提供し、対象の意思を尊重し、常に安心して安全な看護を心がけ実践できている。	3.8
	18)看護計画に基づき、看護を実践し、評価できている。	3.7
	19)評価をふまえ、看護計画の追加・修正ができている。	3.6
4 保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を理解し、他職種と連携協働できる基礎的能力を身につける。	20)保健医療福祉チームの一員として、看護の役割と責任を理解しながら看護を実践している。	3.7
	21)看護に必要な情報は何かを考え、看護チームの一員としてチーム内の報告・連絡・相談を心がけ、協調・協力している。	4.0
	22)看護の対象者をとりまく他職種の多様な価値観を理解しようとしている。	3.8
	23)看護の対象者のケアに必要と判断した情報を他職種から収集することができている。	3.7
	24)看護の対象者の思いや考え、希望、意思決定に伴う揺らぎを理解し、多職種に代弁できている。	3.5
	25)看護の対象者の個別なニーズに対応するために、必要な関係者を判断、情報交換し、協力し合いながら多職種連携を進めることができている。	3.6
5 看護の専門職として自覚と責任をもち、自律した行動がとれるための基礎的能力を身につける。	26)多職種連携が十分に機能するようにその調整的役割を担うことができている。	3.5
	27)主体的に学習の場を求め、自己の課題に取り組んでいる。	3.9
	28)看護系の学会に加入し、新しい知見を得るようにしている。	3.4
	29)専門誌(書籍・雑誌)や研修会・セミナーより、新しい知見を得るようにしている。	2.6
	30)看護研究につながるテーマを模索している。	2.8
	31)いつでも、誰でも自分から挨拶し、身嗜みをいつも整えることができている。	2.1
	32)日常業務の中で倫理的課題を見逃さないように取り組んでいる。	3.0
	33)日常業務の中で倫理的課題を感じたときに問題提起ができている。	2.9

5 今後のキャリアアップへの展望

令和元年11月30日現在

項目	計	備考
①大学進学	9	
②大学院前期課程進学	1	
③大学院博士課程後期課程進学	0	
④認定看護師取得	22	脳卒中リハビリテーション看護(2), 救急看護(2), 集中看護, 緩和ケア(2), がん性疼痛看護(2), 認知症看護, 糖尿病看護, WOCナース
⑤専門看護師取得	6	救急看護(2), 小児・母性領域
⑥保健師の資格取得	6	
⑦助産師の資格取得	4	
⑧看護管理者	11	
⑨特定行為研修への受講	20	
⑩教育・研究職者	4	
⑪その他	11	訪問看護師(2), 認定呼吸療法士, ACLS, ICLSインストラクター取得, ケアマネージャー資格取得, 栄養や呼吸などの資格取得, 海外看護師, 美容系の医療, ジェネラリストを目指して幅広く学習していく, 知識・技術の習得, 独立
計	94	

6 本校の教育に期待したいこと（自由記載の一部抜粋）

- ・アセスメント力、自分から発言できる力を育てて欲しい。
- ・実践的な看護に近い実習をして欲しい。
- ・日常生活援助だけでなく、処置の介助なども臨地実習で学べると良い。
- ・緊急時、急変時の判断能力や対応力が身につけられる教育をして欲しい。
- ・統合実習での学びは、実際の臨床での動きと繋がっていることが多いので今後も継続して欲しい。
- ・看護観を育てる教育を期待したい。
- ・自分はえきさい看護専門学校で学習できたお陰でコミュニケーション能力が特に身についたと感じている。後輩のえきさい卒業生は、他校卒業生よりもコミュニケーション能力が高いと感じている。実習中に「患者さんの所に行きなさい。沢山話してきて」と先生たちが背中を押してくれたお陰です。
- ・自分は3年間で学習面だけではなく、患者への関わり方等の様々なことを学ばせていただいた。今後も自分が身に付けることができたことを、後輩も学べたらよいと思う。
- ・社会人基礎力のある人を育成して欲しい。
- ・アサーティブな力を身につけた人を育てて欲しい。
- ・看護管理者となる人材を輩出して欲しい。
- ・看護職としての知識や技術はもちろんであるが、感性を高められる教育を受けることができたと思う。今後も感性を育てる教育を期待している。
- ・知識も必要だと思うが、一番は患者さんと家族との関わり方、人間性が大切だと思うため、そのような教育、人材を育てて欲しい。
- ・患者を思いやる姿勢、日々学んでいく姿勢を持った看護師を育てて欲しい。
- ・やる気を尊重し、看護師として羽ばたくきっかけを、これからも多くの学生たちに与え続ける学校であり続けて欲しい。
- ・掖済の理念を学生から学ぶことができたため、掖済会へ就職した後もその理念にのっとり看護している。今後も看護の勉強、技術だけでなく、人間性を大切にしたい教育を期待している。